

編集室から

加賀から友人が能登・七尾を訪ねて来てくれたので、ふらりと知人が経営する「いしり亭」に入りました。ギャラリーと能登特産の魚醬いしり料理のお店で、開店以来いしり鍋が売り。

何気なくテーブルに置かれたパンフレットには、「まいげん能登鍋ガイド」と。「まいげん」とは「うまいよ!」の方言です。

パラパラとめくると、知り合いの店主の顔が並んでいる中に、【東京編】とあります。

ん?よく観るとなんと本ニュースレギュラーの川島さんの笑顔!「能登の夜市」もこの企画に乗っていたんですね。曰く「能登粕味噌鶏鍋」。一人前1,280円。2名様より。予約不要。

能登鍋の条件は、「能登の香りがするベースを使う。能登のおいしい食材でつくる。地元産の練団子を入れる。」とあります。県が企画・音頭をとった能登井に比べ、補助金は頂いているものの民間主導の期間限定・食イベント。昨年11月16日から今年3月20日まで、七尾市内22店・金沢1店・東京4店にて開催中。

鍋奉行・鍋將軍・灰汁代官・待ち娘なる遊び心いっぱいの「ゆるキャラ」もつくれ、中々の気合。地元にながら知らないなんて、お恥ずかしい限りでした...。みなさまも是非一度おためしあれ!

o(^o^)oアクセスは<http://notonabe.com> (は)



What's 能登鍋 能登鍋をつくる 鍋プロとは

能登鍋を食べに行こう。

地域で探す	鍋の主役で探す	味ベースで探す	鍋のシーンで探す
●七尾市前地 ●和倉温泉 ●能登島 ●中島・田鶴浜 ●七尾郊外・中能登 ●志賀町赤倉 ●金沢 ●東京	●お魚 ●お肉 ●お野菜 ●その他	●醤油 ●塩 ●いしり ●味噌 ●その他	●居酒屋 ●寿司屋 ●料亭・専門店 ●洋食・イタリアン ●カフェ ●その他

鍋奉行 (Noto-nabe) 鍋將軍 (Noto-nabe) 灰汁代官 (Noto-nabe) 待ち娘 (Noto-nabe)



能登の夜市
NOTO-NO-YORUICHI

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが経営する「能登の夜市(のどのよるいち)」。最近、問い合わせを多く頂きますので、こちらに連絡先を記載いたします。

上京された際、ご利用になってみてください。毎夜能登から直送の酒肴に包まれ至福です。もちろん、川島さんご自身もお店に立っておられます。

能登の夜市: 03-6417-9787
17:00~23:30 日・祝日 定休
目黒駅西口前。サンフェリスタ目黒B1F
<http://notoyoru.jp/>

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2013/02

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2013/02
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

如月



兼六園 冬のライトアップ
by hama

寄稿 『日本を劇的に変える二つのトリガー』 ツァーコンダクター 南也司志

二〇一二年、アメリカは国内の豊富な天然資源であるシェールガスの開発に成功し、エネルギーを自給可能になった。これで泥沼化している中東から手を引き、代わって中国が、中東の石油を求めて乗り出して来ることになるだろう。日本はそんな中国と真正面に向き合うことになる。アメリカはこれまでと同様に日本の後ろ盾となってくれるのか？ 答えは微妙である。

貿易収支が赤字に転落した日本。経済力を失った日本はアメリカにとって同盟国たりえるのか？ 地政的には、基地のある沖縄だけで充分なのかも・・・。

日本は、今、断崖の際に立っている。奈落の底に落ちないために、根本的な変革が必要なのではないか。

そのトリガーは三つ。一、沖縄が独立する。二、憲法を廃棄する。三、エネルギーを自給する。

沖縄は独立できるのか？

現在、日本の安全保障は、沖縄県民の犠牲の上に成り立っている。その沖縄に日本政府はどのように報いているのか？

もし私が沖縄県知事なら、簡単にできたはずの日米地位協定さえ改訂しようとしなかった中央政府に見切りをつけて、沖縄県を「琉球国」として独立させる。

琉球国の独立は、中国によって直ちに承認されるだろうし、ロシアや韓国等の承認を取り付けると、国際法上は独立国として認められる可能性は高い。また、台湾と同盟すれば、経済的にも独立を維持することは十分に可能はずで、東アジアの国際情勢は一変する。その状況に日本は耐えられるのか？

このまま沖縄の基地問題を放置すると、「そうはならない」という保障は何一つない。

憲法は廃棄できる？

ある経営コンサルタントの先生からこんなことを言われた。「経営者ができることは、しくみを変えることだけ。人の心を変えることはできないが、しくみを変えることで人の心は変わる。」と。

暴走老人こと石原慎太郎氏が唱えている「憲法廃棄」は、絵空事ではない。現行憲法には憲法改訂の規定はあるが、憲法廃棄の規定はない。憲法は最高法規であるが、あくまでも「法律」であるから、国権の最高機関である立法院で通常の

濱のつぶやき 『欲と夢』

先日、地域づくり活動の仲間たちと、中期的な活動の方向性について議論する機会を設けた。メンバーは永年さまざまな現場でのアドバイザー・コーディネーターに携わってきたツワモノばかりだった。

多岐に亘る議論の中で、特産品開発・着地型観光プログラム開発に関するの、自らの事業として物販経験が無い矛盾に話題が及んだ。活動が具体性を増すに伴い、実際の物販現場の比重が大きくなる。が、その直接的なノウハウが小さい事を憂いた発言だった。

では、我々自身に物欲があるのか。たとえば外車に乗りたい・戸建の我が家に住みたいなど。すると、中堅世代から、そんな物欲は無いという声が上がった。これには、聊か驚いた。我々コーディネーターはいつから修行僧になったのか。確かに、税金を源とする糧で、みな主に生計を立てている。従って、大儲けをするのは、大道に反する。そう考えてきた節がある。その大儀のため、素直な物欲を押し込めて、忘却させた結果、心底自分には物欲が無いと思込んでしまっただけではないか？ 問い

法律廃止の手続で廃棄することができるはずである。あくまでも現行憲法を護るのであれば、改憲によって憲法廃止に関する条項を追加しなければならないという皮肉なことになる。

日本国は、憲法による「しくみ」で動いているのだから、その「しくみ」で立ち行かなくなったのであれば、「しくみ」を変えればいい。

「エネルギー自給」は究極の安全保障である！

東北地震災以降、原発をほぼ止めた状態で日本がエネルギー源として輸入した枯渇性エネルギー（原油、天然ガス、石炭等）の総額は、約三十兆円（二〇一二年）。日本は基幹産業である工業のみならず、食料を生産する農業もエネルギー源として石油に依存している。その結果、二〇一二年の貿易赤字は約六兆円。単純計算だと、エネルギーの自給率を二〇％にすれば、貿易赤字は解消できる。しかし、そんなに甘い話ではない。国際情勢の変化により、原油や天然ガスが安定的に確保できるとは限らないし、原発を動かしてどうにかなるといふレベルの話でもない。安全保障の観点からは、「エネルギーを自給する」道を歩む他ない。

「枯渇性エネルギー」に代わるものは、「再生可能エネルギー」である。幸いにも、再生可能エネルギー利用技術の最先端を担っているのは日本であり、その最先端技術で生み出される多様な再生可能エネルギーは、日本国内のエネルギー需要を十分に賄うことができると見込まれている。

再生可能エネルギーによるエネルギー自給体制が構築されると、地域に雇用が創出されるという副産物もある。そもそもエネルギーを輸入する必要がないので、資金が産油国に流出せず、その分地域にとどまり、地域のエネルギー産業が生み出す雇用を通じて地域で資金が循環し、国内経済が活性化する。

また、再生可能エネルギー技術が世界に広まり、すべての国がエネルギーを自給できるようになれば、石油を巡る争いはなくなる。現行憲法第九条の理念を実現するためにも、「エネルギー自給」のための再生可能エネルギー利用技術は最強のツールなのである。

さて、いずれも難問であるが、果たして今後や如何に。



【プロフィール】

（みなみ やすし）一九五四年生まれ。印刷関連企業の経営に携わり、二〇一一年からツァーコンダクターとして国内各地を巡る傍ら、石川県立工業高校の非常勤講師として、「印刷技術」の講義を行っている。

を改めてみても、返答は同じだった。

善し悪しは別にして、現実の世の中は貨幣経済で回っている。これは事実だ。一方、清貧の思想は素晴らしい。この思想が世界に根付けば、今日の世界を取り巻く深刻な矛盾が、社会から取り除かれる事だろう。しかし、現実から目を逸らせてはならない。

ある富豪の方のお話を伺ったことがある。「頭で稼いで、心で使う。」その方は、平均的サラリーマンの何十分になるのか分からない額の納税をしている。その上さらに、ある慈善事業にも大きく貢献されている。

別な成功者の方は、「商人は経済の心臓だ。稼ぐことは悪くない。商人がサボっていると世の中（の経済循環）が回らない。稼いでキチンと納税しよう！」と話す。

心の原風景たる里山地域の経済・社会が急速に衰退している。清貧から、清富へ…。清貧の修行僧では、後継者が極めて限られる。

我々も根幹の価値観を変えなければならぬのではないのか。そうしなければ、地域社会・経済の自然死を防ぐことは我々には為しえないかも知れない。

きただより56 弘前大学地域社会研究会 上村 康之
『かつての現場、山形県鶴岡市の「街なか」を訪ねて(2)』

鶴岡市は、「文化」「映画」による地域振興、街なか再生を掲げている。

2006年7月、庄内地方の企業を中心に映画文化の発展と地域の活性化を目指し、庄内映画村株式会社が設立された。月山山麓に、農村・漁村・宿場町・山間集落など撮影セットが点在する「庄内映画村オープンセット」と、映画村が撮影支援を行った映画 1 に関する資料を展示する「庄内映画村資料館」から、映画村が構成されている。

この映画村は郊外にあるが、街なかには2010年5月に「鶴岡まちなかキネマ」 2 が誕生した。山王商店街に近接する昭和初期建築の絹織物工場である松文産業跡地約1万㎡に、当時の木造の工場をコンバージョンし、映画館4館、ヒラボク食堂 3、貸しスタジオ、エントランスホールを整備した。

かつて中心市街地にあった映画館は、隣接する三川町のイオンシネマ三川店に客を奪われて廃業したが、このキネマにより復活となった。筆者が訪問した2012年11月、大雨の平日であったが、食堂やホールに映画ファンらしき年配の方などが見られ、昨今の大型のシネコンとは異なった落ち着きを感じられる建物と館内の雰囲気であった。まだ経営が軌道に乗っていないようであるが、今後、産直機能を併設する計画もあり、さらに街なかのにぎわい創出に期待が持てる。

作家・藤沢周平は、鶴岡や庄内の自然や文化を題材とした小説やエッセイを多数残し、「たそがれ清兵衛」「武士の一分」など8作品が映画化されている。一時「藤沢周平ブーム」があり、年配の方を中心に根強い人気がある。市はこの追い風のなか、2010年4月「藤沢周平記念館」を鶴岡城跡の鶴岡公園内に整備。確実に1枚魅力が加わった。このほか、市の歴史的シンボルでもある鶴岡公園には、鶴岡タウンキャンパス 4、鶴岡アートフォーラム 5 が整備され、公園に隣接する致道博物館と合わせ、一大文化ゾーンを形成している。

これらの「文化」を軸とした施策の展開と、前回紹介した市立荘内病院や総合保健福祉センターなどの公共施設の整備も含めて、中心市街地街のなか再生、コンパクトシティが実践されている。

市の担当の方によると、鶴岡のまちづくりは、東京の大学都市計画研究室による30年近くにもなる参画と支援を抜きに語れないという。大学の研究室が調査研究の成果をあげるだけでなく、いかに真剣に地域と向き合い良好な関係を作ってきたか。そこにこそ、この街の成果の真髄を観る思いがする。

1:第32回日本アカデミー賞を総なめにした本木雅弘主演「おくりびと」、や「蝉しぐれ」など

2: 事業主体は、(株)まちづくり鶴岡

3: 庄内地域を代表する平田牧場による豚肉中心のメニュー

4: 2001年5月・慶応大先端生命科学研究所開設、2005年4月・東北公益文科大学大学院開設

5: 2007年8月オープンの市民ギャラリー

『仕事術指南書』
株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

まあ最近これといったネタがないということもあり、本屋で書籍を漁りにいってまいりました。

大好きな「料理関連(最近買った魚図鑑が秀逸です)」から「スポーツ関連」の売り場をまわり最後に最近全く覗くことすらなくなった「ビジネス書籍」に行ってみたのですが、あー今はこのジャンルが売れているのねという気づきがありました。

「仕事術」シリーズです。

『できる人の超仕事術』からはじまり

・『年収3000万円の仕事術』

仕事術で3000万円稼げるみたいな言い回しはどうかなあ。

・『ストレスフリーの仕事術』

一番のストレスフリーは人間相手に仕事をしないこと

・『悪女の仕事術』 男性が買って読んだほうがいいのかも

・『最強マフィアの仕事術』 そんな誰が調べてきたの?そのほうがすごい

・『ゴルゴ13の仕事術』 実在してないし!

・『キャバ嬢直伝 八方美人仕事術』 もう何がなんだか。。。

とおもしろすぎる(突っ込みの入れがいがある)タイトルの本が仰山あるではないですか。

一日ここにいて誰が何の本を買うか見てみたいものです。

さて、ビジネス書売り場の約1/3を占めているこの「仕事術書」みなさんはどう思いますか?

「仕事術」と一言でまとめてしまうのはいささか乱暴すぎるくらいがあるので分解してから再定義してみますと

会社や組織、そして自分が目指すゴールを理解する

そのゴールに達成するための様々な問題を見つけ優先順位をつける

その問題の原因を追究する

解決にあたってのリソースを準備し、合意を得る

問題解決に向けた具体的行動を起こす

に分解できますね。つまり「仕事術 = "問題解決のプロセス管理"」と定義できます。その上で細かいファクターであるスケジュール管理や、組織管理、交渉等があるんですね。なのでここでその部分だけを切り出して話しても、全体のどこに問題があるのか?という論点では不十分なんです。あと、もっと言えば前述した仕事術の多くが「スタイル論」なんです。

つまり、どうかっよく、どう楽ちんにと感じです。

いやいや、仕事ってかっよくやりたいとか、楽ちんにこなしたいというのが最初には来ないですよ。ねっ!

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』

伊豆松崎町への旅(その1) 静岡県職員 溝口 久

小生には行きつけの農家がある。大分県安心院町にある「舟板昔話の家」がそれだ。農家のおばちゃん中山ミヤ子さんが擬似の母になる。囲炉裏、五右衛門風呂、つるべ井戸のある築110年の農家に宿泊し、どじょうや猪、鶏、地元野菜を使った料理を囲炉裏端でふるまってくれることが売りだ。うどん打ち、豆腐づくり、かまどでのご飯炊き、草木染め、ヤギの世話などの体験もできるらしいが、そんなことは一度もしたことがない。たいていは近場の温泉で一風呂浴びてビールをしこたま仕入れて夕刻にお邪魔するからだ。

そして翌朝はおもむるに由布院に向かう。日出生台の演習場を横目にやりながら、防衛予算で整備した道路を走ればわずか30分だ。そんな具合だから専らご馳走になりに行くばかりだ。最初に伺ってからすでに10年、最初の頃は安心院グリーンツーリズム研究会のメンバーにそば打ちを伝授したり、五右衛門風呂に火を入れていたりしたが、今では九州の知人・友人と一緒に、はたまた居合わせたお客と交流しながら一夜を大いに盛り上げて過ごすことにしている。昨年は4月、8月の2回お邪魔した。もう親類感覚だ。いや、親類よりもはるかに居心地がいいのかもしれない。

「ミヤ子さん、静岡県にもお越しくださいよ」「ずーと前から、松崎に行きたいと思っちょるんよー、東京に行った時も周りの人に行きたいって言うたら、行くだけで半日はゆうにかかるので止した方がいいですよ。お宅の県の川根町に行った時も無理ムリと言われて、なかなか行けんのよー」

「わかった、福岡空港から富士山静岡空港に飛んできたら、そこから車で清水港 伊豆土肥港 松崎です。空から富士山眺めて駿河湾からも富士山眺めて、松崎入りっていうのがいい、早速セットしましょう。金土日の2泊3日でどう?で、いつにする?」手帳をめくりながら「11月30日から12月2日なら空いてるけん、そこにしよう」今回一緒に付き合ってくれている福岡県椎田町の信田さんと大分県耶馬溪町の萩原さんも同行してくれることになった。

静岡県に帰ってからミヤ子さんが知っている松崎町の役場の関さんに連絡を取った。「安心院のミヤ子さんが松崎町に来たいって言うてるんで、構ってくれませんか? ついでにお話してもらったらいい」との一方的な申し出にも関わらず、本人はもとより企画観光課長の山本さんも一緒になってお受けいただくことになった。そして「中山ミヤ子さん『舟板昔ばなしの家』講



演会&パネルディスカッション」で迎えてくれることになった。

富士山静岡空港に藤枝市役所の河原崎君の運転でご一行を迎えた。「2泊3日松崎に九州の人たちと行くので、車出しながら付き合ってくれんだろうか?」スケジュールを確認した彼はすぐにOKを出してくれた。2月にも愛媛県庁の友人を静岡駅でピックアップして富士山の裾野にある小山町に付き合ってくれたなあー。「溝口企画に間違いなし、絶対に楽しく面白くためになる」との小生の言葉を信じていつも付き合ってくれている。

11月30日、富士山静岡空港から清水港に向かった。そこから駿河湾フェリーだ。少し曇りがちな天気駿河湾の向こうの富士山は薄いベールに隠れていた。こんな時に新幹線新富士駅にある観光案内所では、女性には「べっぴん証明書」、男性には「男前証明書」を発行してくれる。* 「べっぴん証明書」には、「今日は、日本一の美女である富士山があなたの姿に嫉妬し、その姿を隠してしまいました。ここにあなたがべっぴんであることを証明します。しばらくすると、富士山のお化粧が仕上がります。またのお越しをお待ちしております。」と書かれている。「男前証明書」には「今日は、日本一の美女である富士山が恥ずかしがり、その姿を隠してしまいました。ここにあなたが男前であることを証明します。しばらくすると富士山のお化粧が仕上がります。またのお越しをお待ちしています。」といずれも富士市長の署名入りなのだから間違いはない。*

遠路お越しいただいたのに富士山を見ていただけなくて残念と思いつつ、一時間弱で伊豆半島西海岸の土肥港に着いた。そこから車で40分ほど南下すると松崎に着く。そこには松崎町振興公社の関さんが満面の笑みをたたえて待っていてくれた。

「日が短くなっていますから、早速堂ヶ島に行きましょう。今年9月に伊豆半島は大地(ジオ)が育んだ貴重な資産を多数備えた地域として、日本ジオパークネットワークへの加盟が認められました。本州で唯一、フィリピン海プレートの上ののっている伊豆半島は、かつては南洋にあった火山島や海底火山の集まりで、プレートの北上に伴い火山活動を繰り返しながら本州に衝突し誕生しました。堂ヶ島に行くとそれがよくわかるのです。」関さんはジオパークガイドでもあるとのこと。

まずは、海上から船に乗り込んだ。堂ヶ島ジオサイトは、伊豆の海底火山時代の痕跡を美しい地層や景観から知ることができる。世界的にもまれな海底火山の美しく多様な地層断面が観察できる。氏の説明があることで大地のはるかかなた昔の変化に大いに興味を持てた。(つづく)

